

令和6年度 第4回 学校運営協議会

～地域とともに～

【懐山おくない体験】



【防災講座～HUG～】



【下阿多古ふれあいセンターまつりボランティア】



令和7年2月20日(木)
浜松市立清竜中学校

令和6年度 第4回 学校運営協議会

【全体会Ⅰ】(14:00~16:00)＜多目的ルーム＞

学校運営協議会委員

藤井 信男 様 田村 和史 様 西田 躬穂 様

内藤留美子 様 阿蔵 直子 様 森下 伸弘 様

出野 光雄 様 鈴木 省吾 様 濱田佳代子様

学校支援コーディネーター 野口めぐみ 様

CSディレクター 渡邊 理保 様

- ①日程説明
- ②会長あいさつ 藤井会長
- ③校長あいさつ 袴田校長
- ④議長の選出(出席委員の中から互選、名簿順)
- ⑤前回会議録確認 CSディレクターより

【学年懇談会参観】14:20~14:40

学年	教科	授業者	場所
1年生	総合的な学習の時間	福田雄介、三谷優介	2階教室
2年生	学年集会(修学旅行)	菅沼幹保、矢部柚奈	体育館
3年生	総合的な学習の時間	宮分諒、玉木由実子、金本浩行	3階教室

【全体会Ⅱ】14:40~

⑥熟議

- (1)清竜中学校教育課程学校関係者評価について(熟議→承認) 教務より
- (2)令和7年度清竜中学校運営方針について (熟議→承認) 校長より
- (3)学校運営協議会の自己評価について (承認) 会長より
- (4)夢育やらまいか事業報告 (承認) 教頭より

⑦連絡

- 通学路・校内安全調査について
- 部活動地域移行に向けて~新入生部活動調査~
- 令和7年度第1回学校運営協議会予定 令和7年5月16日(金)14:00~

※内容については別紙参照

令和7年度 学校経営方針（案）

<浜松市立清竜中学校>

【校 訓】 和をもって 賢く 逞しく



↓
4中学校の統合 H17.4.1 ~本年度 開校 21 年目 校章
4小学校（熊、上阿多古、下阿多古、二俣、その他）からの入学
⇒ お互いの心が通い合い、協力すること・・・統合の礎
（※ スクールバス通学 名、タジ-1名）

【学校教育目標】 温かくかかわり 逞しく前進する（生徒の育成）

- 清竜中学校での教育活動を通して、気持ちのよいあいさつ、感謝の心、思いやりの心を大切にできる大人へと成長して欲しい。
- 自分の将来に向け、目標とする学力や職業観、自分を向上させる前向きな姿勢や考え方を身に付けて欲しい。（キャリア教育）

【目指す生徒像】

- <徳育：和をもって> 人との温かなかかわりを大切にする生徒
- <知育：賢く > 粘り強く課題に挑戦する生徒
- <体育：逞しく > 丈夫な体と心を鍛え、チーム清竜で前進する生徒

【学校経営構想】

〔経営の理念〕 生徒と教職員の良さが輝き、笑顔と温かさのある学校づくり
（一人一人を大切にする学校風土・人間性と基本的生活習慣の徹底）

〔経営の基盤〕

- 第4次浜松市教育総合計画（はままつづくり未来プラン）
- 学習指導要領の定着
- 地域・保護者の願い
- 発達支援教育の理念
- 浜松市教員育成指標にそった教職員を目指す

〔経営の重点〕

- 1 学力保障・・・目標と指導と評価の一体化を図り、教師の授業力向上を目指すことで子供の資質・能力を育てる。
（分かる授業・できるようになる授業、教育のDX）

☆「主体的・対話的で深い学び」校内研修との連携

- (1) 各教科での先を見通した単元構想・単元計画の作成
- (2) 分かる授業・できるようになる授業
 - ①基本的学習習慣の徹底（家庭学習の充実・タブレットを利用した家庭学習）
 - ②ICTを効果的に活用した授業改善（浜松市指定教育研究成果の充実・発展）
 - ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ④教材教具・資料等の工夫
 - ⑤個に応じた学習相談（外国人指導・取り出し指導の拡充・放課後学習室）
 - ⑥教師間の授業参観

- 2 生活・健康教育・・・学校における生徒・職員の心身のケアに努める。健康の保持増進を図るために、疾病予防や命の大切さ、性に関する理解を育み、健康で逞しい生徒を育てる。

☆生徒指導は、前始末、スピード感、誠意、組織で対応
報告・連絡・相談 一人一人の存在感、居場所づくりの確保

(1) 子供に寄り添い、温かくかかわる生徒指導

① いじめ防止基本方針に則り、「いじめ見逃しゼロ、積極的認知、組織で対応」を心掛ける。いじめが起きにくい 許さない学校風土づくり

② 個別に支援が必要な生徒へのきめ細かな指導
不登校生徒（きよたつルーム）、外国人指導（まなびの教室） など

③ SC や SSW、医療・福祉との継続した協力体制の構築

(2) 継続した感染症対応や体調管理の徹底 自分の身体は自分で守る。

(3) 毎月の健康教育の日を有効に活用し、成長期の適正な食事や運動や睡眠の向上を図る。

- 3 キャリア教育の推進・・・全教育活動を通して自己を見つめ、より良い集団づくりに取り組み、自分の役割を果たし、自分らしい生き方を追究していく能力を育てる。

本年度も生徒の実態から「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」を育むことに重点を置く。

(1) 人間関係形成・社会形成能力【かかわる力】
多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることができる。自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

(2) 課題対応能力【挑戦する力】
自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要な力、よりよい生き方をしていくために従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていく力。生徒会を中心とした生徒主体の活動を取り入れる。

(3) 特別活動、総合学習、各教科で【見つめる力】・【つなげる力】を意識させていく。【地域とのつながりを意識した福祉教育・職場体験学習・伝統芸能等】

- 4 教育環境整備・・・生徒を取り巻く生活環境を整えていく。

(1) 自分の力を伸ばし、発揮できる環境をつくる。

① 整理整頓された校内と安全で衛生的な施設

② 必要な情報や豊かな感性を引き出す掲示物づくり

(2) かかわり合い、認め合い、伸ばし合える環境づくりを心掛ける。

① 心温まる言葉遣いや態度、よさを認め合える信頼関係の構築

(3) 事故や災害等に対する防止・防災対策を整備する。

① 学校・家庭・地域・行政の連携による危機管理体制の構築

② 人命を最優先した対応マニュアルの整備

③ 地域と共に自助、共助の大切さを学ぶ防災教育(講座や演習)

④ 学校の危機管理(校内外の事故・健康管理・自然災害・不審者侵入等)

⑤ 安全管理の徹底(施設設備点検・安全指導 等)

5 社会に開かれた学校づくり・・・教育活動の成果や情報を積極的に地域に発信し、地域の人材や文化等を知り活用する。

- (1) 学校運営協議会【コミュニティスクール】、PTA、健全育成会において持続可能な取組を心掛け、社会に開かれた教育課程を目指す。
- (2) さくら連絡網、ホームページ、学校・各学年だより等を活用し、生徒の諸活動や行事に取り組む姿を積極的に知らせていく。
- (3) 地域の豊かな人材の活用(学習支援・環境整備・キャリア講座 等)

6 チーム力強化・・・全職員が経営参画意識を高く持ち、目標の共有化と役割の明確化を進め、目標達成に向かって協調・協働する。

職場の心理的安全性を図る。(ストレスをためない、風通しの良い職員室)
組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状態のこと。

- (1) 「チーム清竜中」として、全職員が同じ目標に向かい、職員のやりがいを感じるような学校づくりを意識し合う。様々な立場の職員（SC、SSW、非常勤・支援員・シルバー用務員）がいる。合い言葉は、「清竜中の生徒のために」
- (2) 学校が一つになって前進・進化する機運を盛り上げる。
各学期：「①自己目標」・「②自己挑戦」・「③自己実現」
活動ステージ：「①基本」・「②団結」・「③協調」・「④克己」・「⑤自主」・「⑥感謝」
6ステージを教師が理解し、生徒にも意識づけさせる。

7 働き方改革・・・国の改革方策に則った浜松市教育委員会が示す方針を受け、必要な業務に集中できる学校指導体制を構築し、教育の質の向上を図る。

- (1) 学校の経営方針や重点目標を明確化する。
- (2) 継続的に行われてきている学校行事等や教職員の業務の効率化を図り、教育計画全体において相乗効果のある業務の軽減化を推進する。
- (3) 教育効果を高める効果的な組織を構築し、校内分掌のバランス化を図る。
教育課程外の活動について、教育課程内の教育活動の充実を優先した評価と見直しを行い、学校体制でスリム化を図る。
- (4) 持続可能な部活動運営のための段階的な地域移行への転換を進める。
次年度に向けての本格協議（運営方法・参加ルールづくり）

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(清竜中)学校運営協議会長

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 重点項目を中心に、「一步前進」というキーワードをもとに、学校の進もうとしている方向について熟議することができた。
- 「ICTを効果的に活用した授業改善」については、浜松市教育委員会指定教育研究の授業公開を実際に参観して、協議会を設けたことで、より成果と課題を明確にしながら熟議することができた。
- 部活動の地域移行に向けての熟議が始まり、地域移行の課題を共有することができた。
- 読書教育、防災教育などについて熟議したことが実践に結びつけることができた。
- 部活動の地域移行については課題が多く、熟議が必要である。

＜評価項目2＞ 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 熟議に清竜中職員も加わり、進めてきた校内研修について多面的に熟議を進めることができた。
- 「ICTを効果的に活用した授業改善」に関する研究授業の取組を目の当たりにし感銘を受けた。新しい試みのすべてが正しいとは思わないが、教職員と生徒が共に学んでいくスタイルは今後のよい指標になると感じた。
- 二俣川クリーンアップ作戦を健全育成会と連携して取り組むことで、地域住民と生徒の交流、教員の負担軽減につながるなど、熟議を生かして進めることができた。
- あいさつ運動で生徒と会話し、生徒の実態を把握し、熟議に反映した。
- 防災教育について、地域連携の観点からも話し合いができた。
- 学校での防災教育を地域へ広げる活動へ繋げてもらいたい。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 「学校だより」「学校ホームページ」を通して地域住民に知らせることができた。
- 自身のボランティア団体で、関連する情報を発信することができた。
- 十分な情報発信とまでは言えないが、家族や地域の集まり等で、学校の取り組みや現状を話題にすることが以前に比べて格段に増えた。
- 部活動の地域移行について、周囲の人たちと話をする機会が増えた。
- 「学校だより」等を活用して、人材募集等を行ってみてはどうか。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 部活動の地域移行について熟議を進める。
- 清竜中学校区で同じ方向性(地元の自然や文化を愛する活動等)で熟議を重ねることも大切ではないか。
- 保護者の学校へのかかわり方を検討する。
- 情報発信方法を検討する。
- 保護者の学校への関わり方を検討する。